連載 とっておきの道具 ⑥

畳、なつかしくて

置き畳「tatami space & bed」

道具の選定・文＝熊井千代子（クマイ商店常務取締役）
写真＝山下恒徳

都会で暮らしていると生活のなかに音があふれています。テレビやオーディオからの音はもちろん、町を歩いていても電話や駅のベルの音など常に聴覚が刺激されつづけています。

たまに京都へ旅したとき、お寺めぐりをすると、畳廊下を通り、畳の敷き詰められた部屋に座り、ふすま絵やお庭を拝見することがあります。そんなときは、とても静かな空間を感じます。それは部屋の畳やふすまがまわりの雑音を吸収してくれるので、シーンとしていて、小さな声で話してもよく聞こえるからなのだと思います。また、茶室でお茶をいただきながら、釜鳴りを楽しむ風情なども、日本ならではのものでしょう。

最近のマンションでは畳敷きの和室が少なくなっています。オプションで和室を設けることができる場合でも、畳はあまり採用されません。

でも素足で寝転ぶ畳の感触は身体のリラックスだけでなく心も解放させてくれます。

生活習慣の変化のなかで多様に楽しめて、小さく畳んで収納もできる畳の形を模索して、これができました。

この「tatami space&bed」は、組み立て式です。

通常は縁なしの半畳を2枚組み合わせて、1畳用として使いますが、部材を減らせば半畳のスペースにもなるし、部材を足せば2畳敷きの座敷にもなります。

畳に使われているいぐさは、細い棒のように見えますが、まわりに薄い皮があり、中はろうそくの灯芯になるふかふかしたクッションが詰まっています。それが湿度を調整したり、二酸化窒素や音なども吸収してくれるのです。

家のなかに機能的な動線をつくるために、最近、畳の居場所がだんだんなくなってきています。でもそれだからこそ、生活を楽しみ、気分を変えたいときには、畳はますます必要なものになってきていると思います。

畳の上に正座して心静かに静寂を楽しむ時間をもってみたいと、これをつくった私がいちばん思っています。

畳を置く台は、クギを使用しないで簡単に組み立てられます。

フローリングとコンクリートのモダンな空間に、しっくりとなじむ置き畳。
ちょっとゴロ寝したいときにぴったり。いぐさの香りが漂います。

熊井千代子（くまい・ちよこ）
クマイ商店常務取締役。1951年東京都生まれ。74年明治大学文学部卒業。76年台東区谷中の上野寛永寺の出入り畳店・クマイ商店の熊井芳孝と結婚し、畳とインテリアの仕事を手伝う。83年ワコアインテリアコーディネータースクール卒業。90年絹べり畳桃山を製作。97年よりクマイ商店常務取締役。伝統的な畳のほか、現代の暮らしに本物の畳を生かすことをコンセプトとした、新しいタイプの畳家具を意欲的に提案。アートを通して町の活性化を図る仕事もしている。

tatami space & bed
デザイン・製作年＝クマイ商店（2001年）
材質＝国産いぐさ＋アガチス集成材
サイズ（家具部分）＝幅200㎝×奥行き115㎝×高さ18㎝（板の厚さ3㎝）
（畳）＝80㎝×80㎝×2枚
＊このほか半畳、2畳サイズもあります。
カラー（家具部分）＝ナチュラル
（畳）＝ナチュラル
＊このほかイエロー、ピンクベージュ、グレー、グリーンもあります。

価格＝95,000円（税別、送料別）
＊畳をナチュラル以外のカラーにした場合は105,000円（税別、送料別）。
お問い合わせ＝クマイ商店
東京都台東区上野桜木町2-13-3
☎0120（66）0901
URL＝http://kumai.tripod.co.jp/home.html